

実験工房11 MARANTZ SACD SA-17AS1に第2世代電源搭載

第2世代シリーズ電源モジュール、BC24A03HVer、B12A03HVer ×2、を使い、アナログ、クロック、サーボ回路のDC電源を改造、21世紀の最新テクノロジーで、世界一の倍音再生（自然界の音）の可能なSACDに変身させる実験。

AES 東京コンベンション2005で技術発表した第2世代シリーズ電源モジュールを使いMARANTZ,中級機の電源部を載せかえただけで、欠落していた音声信号すべて再生され、CDをヘッドフォンで聴いたときの音がそのままSPから再生できる。

MARANTZ SACD SA-17S1 改造記

このSACDは2006年、現在発売中のもので上位機種に属し完全ディスクリット構成によるアナログオーディオ回路、Super Audio CDの広帯域/ハイ・スピードな信号に対応機種。

電源部

電源トランスは銅メッキシールドケース封入のスーパーリングトロイダルトランスと蛍光表示管用のEIトランスの2トランスで構成。これにより蛍光表示管から発生するノイズが電源トランスを経由し、オーディオ回路に侵入する事を阻止しています。また、トランス以降の整流平滑回路、定電圧回路はサーボ回路等のデジタル系、オーディオ回路等のアナログ系を分けるのはもちろん、その配置も分散して相互干渉対策がされています。

電源部を理想電源、第2世代シリーズ電源モジュールを搭載し100%の音声信号を再生することで高域では倍音の再生,中低域分解能の向上を図ることで自然なバランスになると判断、究極のSACDをめざし、実験を行う。

作業内容

オーディオ回路を第2世代シリーズ電源モジュールBC24A03HVer、に置き換えC:16V 4,700 μ F×3を使い完璧なDC電流を供給、サーボ回路は第2世代シリーズ電源モジュールB12A03HVer、C:16V 6,800 μ F×3個 DAC,クロック系もB12A03HVer、C:16V 6,800 μ F×3個 を使い完璧なDC駆動を試みた。

試聴

最初にオーディオ回路を第2世代シリーズ電源に置き換え、結果は“全く凄い”の一言です。なんとと言っても飛び出した音は別世界という形容です、プリアンプを初めて交換したときと同じ、中・低域が力強く艶やかになり高域は透明感が激変しました。

次にデジタル系、サーボ系を第2世代に デジタル系を交換した途端、演奏者が、押し寄せて驚きでした。

機種特有の音とびもサーボ系、デジタル系のDC電源の安定化で完璧になおりました。

改造費用

BC24A03HVer、	¥9,500-
B12A03HVer ×2	¥14,000-
C:16V 6,800 μ F×9	¥2,250-
C:35V 4,700 μ F×3	¥750-
技術料	10,000-
改造引き受けます。 計	36,500-

A & R Lab 代表 出川三郎
住所 〒257-0001 秦野市鶴巻北3-10-23
TEL、FAX 0463-76-9606
mail: sdegawa@mvd.biglobe.ne.jp

SA-17 基板内部作業前



アナログ回路の改造

サーボ系、デジタル回路の改造

